

ひめまつ

33



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武幸

ひめまつ 目次 第三十三号

表紙……島田武幸	題字……石川木魚	写真……写真部・伊東礼一
随想……私学三代記	校長 須賀 淳	高橋 加津江
積極的意見提出に期待（新生徒会長に就任して）	丸本 経美	1
力のない正義は無に等しい（任務を終え反省のことども）		4

全校生徒が読んで書く（読書感想文入賞作品）

坊ちゃん	大出 寿子	人間失格	影山 智恵子
罪と罰	小川 友子	罪と罰	半田 宏美
狭き門	安部 由紀	人生論	小倉 栄子
車輪の下	小松原 妙子	狭き門	網川 敏行
日本人の笑い	君島 幸一		

◇開かれた進学への道（宇都宮市青年の主張弁論大会最優秀賞）

阿久津幸子・丸本経美・高橋加津江・田村美代子・
斉藤美智子・左東純美子外

詩

この学校を選んでよかった

家政科・増田保子・吉田晴美 音楽科・大島望 調理科・島田和枝
委員会・クラブこの一年 風紀委員会・文化・体育等

▽俳句

須賀友正先生の県公安委員長離任式

53 36 33 20 18

先生方の随筆コーナー

女子生徒に望むこと	・杉山 三造	大自然の驚異	・高野沢良子
折りおりの歌	・寺内 恒夫	奥日光西の湖へ	・相馬 郁子
郭公、自然と人間	・大谷 武		
特集……きびしい子どものしつけ（ヨーロッパの旅）		戸室光子	62
インターアクト研修旅行……新潟・佐渡・川島良江・和気美也子			66
1C年次大会に参加して（高原山少年自然の家）			

◇文部大臣賞

寂しい母の後ろ姿・高橋加津江 ◇優秀賞 ある日の駅・小川 敦子

わしらのホームルーム（二年・二年・三年）

▽特集△ 優しい心づかいについて 安部由紀・福田美紀子・福田富子

学園ニューストピック 川津校長先生のお便り・敬老の日の贈物・PTA研修施行はか

▽奉仕活動・活発な学友会

赤い羽根募金はかく生きている（生徒会）

修学旅行 伊勢・高野山・四国 ……小池 圭美・小日 幸子・勝 良枝

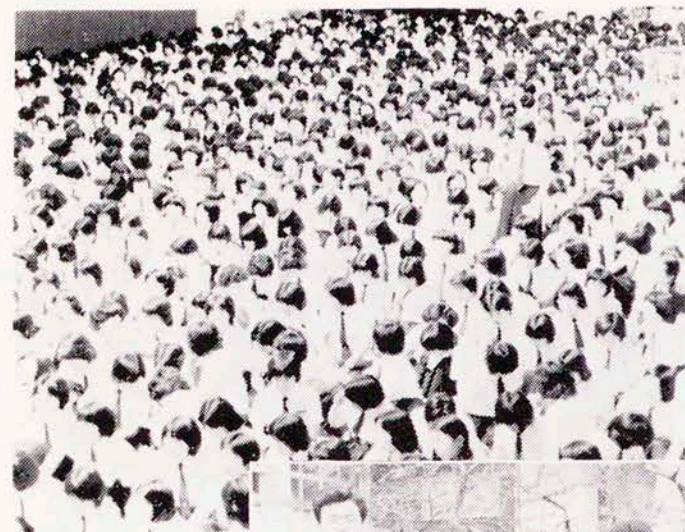
遠 足 ……大笹牧場・阿字が浦・裏磐梯キャンプ

広場

ロビーで語ろう…▽進級を前にして（二、二年生）自衛隊大量炊事研修・私たちの主張外

家政科技術検定について……検定合格一覧

昭和五十三年年度就職決定状況	117	昭和五十三年度生徒会役員	120
昭和五十三年度学校行事	121	職員住所録	122
□編集後記・奥付			124



(校内球技大会)



↓ お見事ノストッププレー

発言者にご注目をノ
(生徒総会)



← ことしはがんばるぞノ
新生徒会役員の勢ぞろい



うたごえも高らかにチームワークよろしくノ
(合唱コンクール)



↑ ホーム ホーム スイート
ホーム
山と湖と森のお祭
(裏磐梯岬キャンプ場のひとこま)

オッカナビック
リの人もノ
どうしてどうしてノやるわい
(日光スケート教室)



校歌



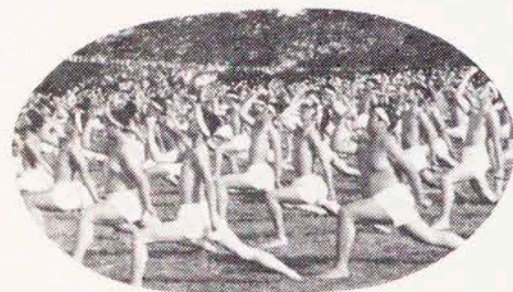
宇都宮短期大学附属高等学校校歌

二 荒の高嶺を 遙かに仰ぎ
学びの道筋を まさきくあれと
かたみに誓いて いそしみ励む
教えの庭こそ げに尊けれ
あわれ尊 この学びや

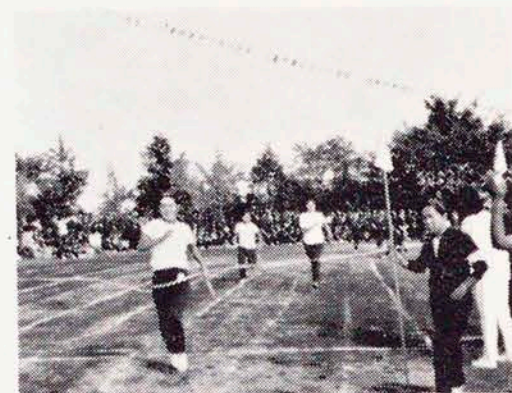
二
庭面に茂れる 姫松小松
変らぬ操は 千代万代と
かたみに祝いて いそしみ励む
学びの庭こそ げに芽出度けれ
あわれ芽出度 この学びや

美と力の祭典・華やかな体育祭開幕

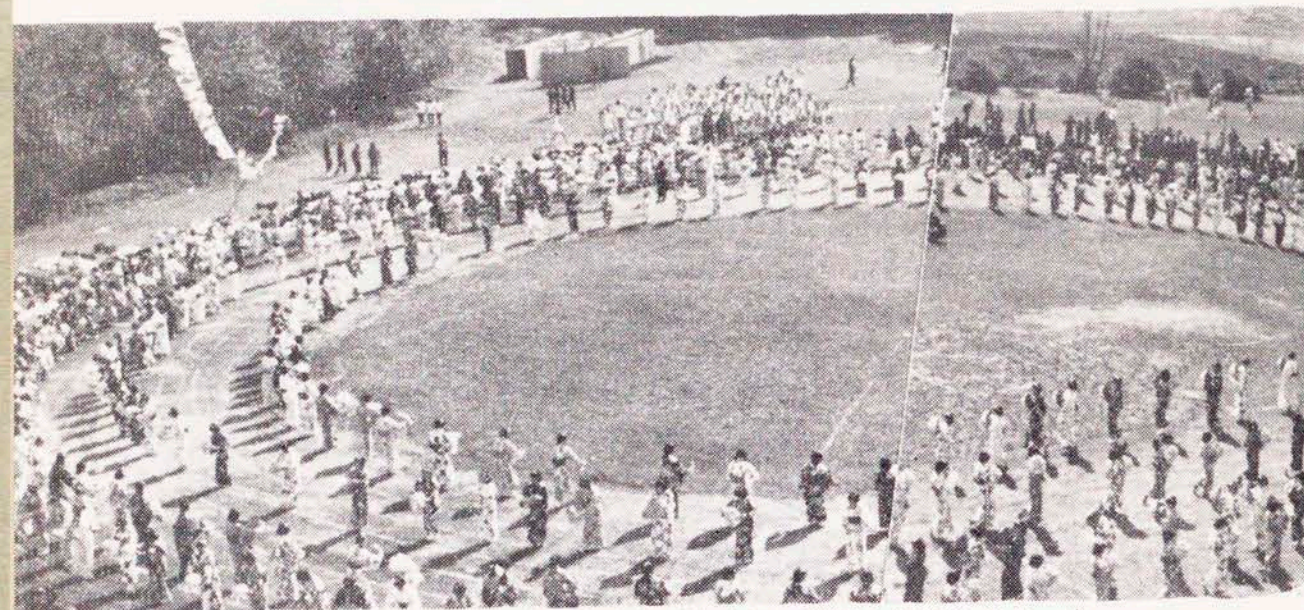
(宇 短 大)



本校名物のエッサッサ



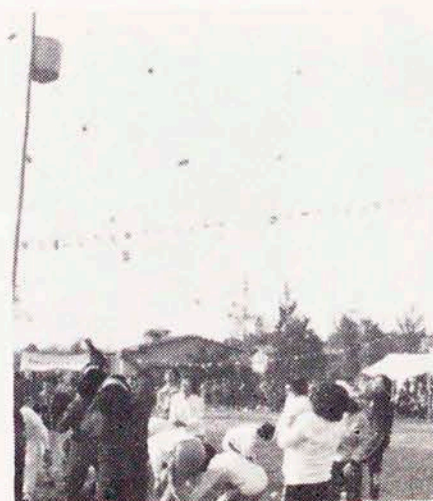
余裕しゃくしゃくノゴールイン



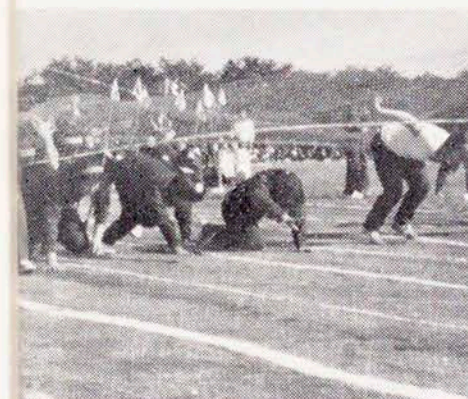
浴衣すがたもあてやかに・華麗な和楽おどり ↑



いざ、出陣
やったるぞノ
(調理科男子)



グラウンドにて)



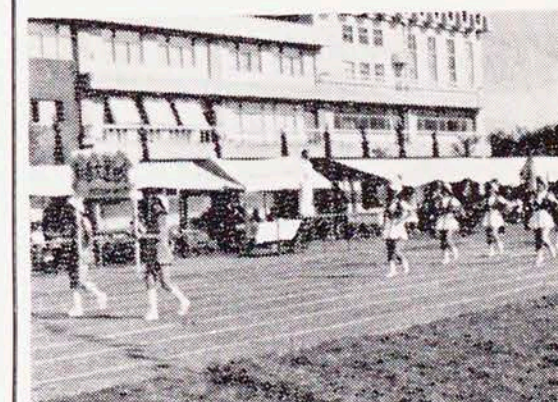
しんどいぞノ障害物競走



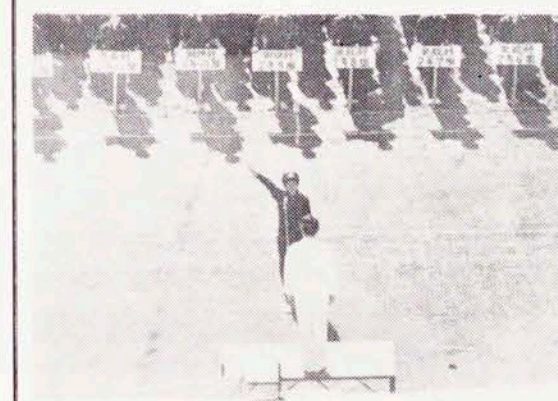
先生方も一役
球入れ競走
ぐんぐん ぐんぐん
青空までもノ
上がるぞ
揚がるぞ



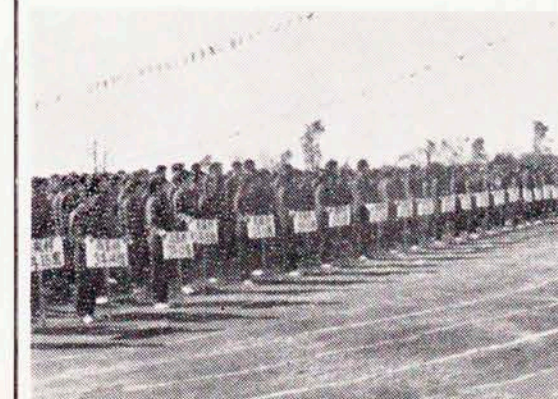
おごそかに校旗入場



さっそうノバントワリング



正々堂々とノ生徒代表の宣誓



万国旗の下・全員集合

随想

私学三代記

校長 須賀

淳

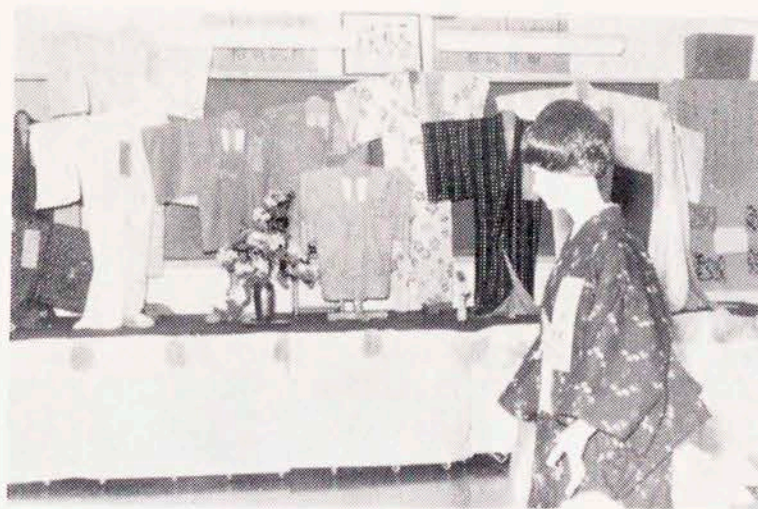


大不況の時代と、世の荒波に抗して、創立者須賀栄子先生は女性の身をもって本学園発展の基礎を築かれました。ついで、父（現理事長・学長）が戦中、戦後の激動の時代に遭遇

須賀学園は、明治三十三年、その当時栃木県には女学校は県立が一校しかなかったという時代に、県内初の女子私学として、須賀栄子先生（私の祖母）によって創設されたのです。以来八十年、その間には幾多の風雪がありました。それらの苦難を乗り越えて発展し、今日にいたっています。

明治の草創期、大正の興隆期、そして昭和初期の

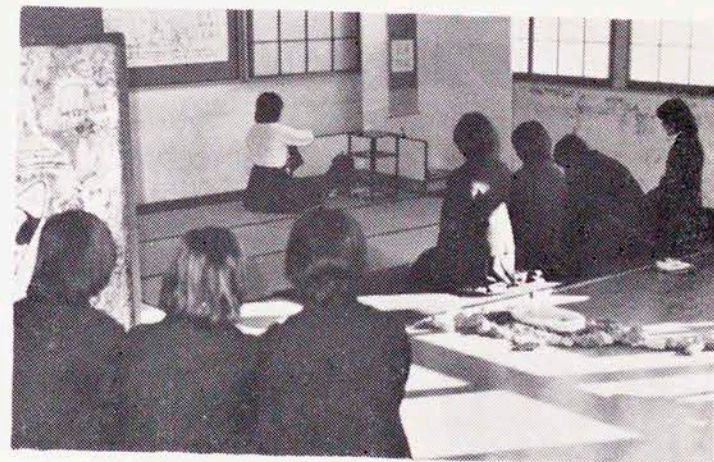
文化祭もやりました
点描二三



← デパートの売場では？
和裁部さすがですね



← ファッションモデルでは？
洋裁部やりますね



↑ 仁義礼知信の礼。（茶道教室）



← 楽しく和やかに、
勉強もみっちりやりました
PTA 研修旅行
（赤湯温泉にて）

し、六・三・三・四の学制改革を乗り切って、本校の規模も大きく発展させました。さらに、昭和四十二年には短期大学を創設して、歴史と伝統を誇る私学として、栃木県内のみならず広く全国にその名を知られるにいたしました。

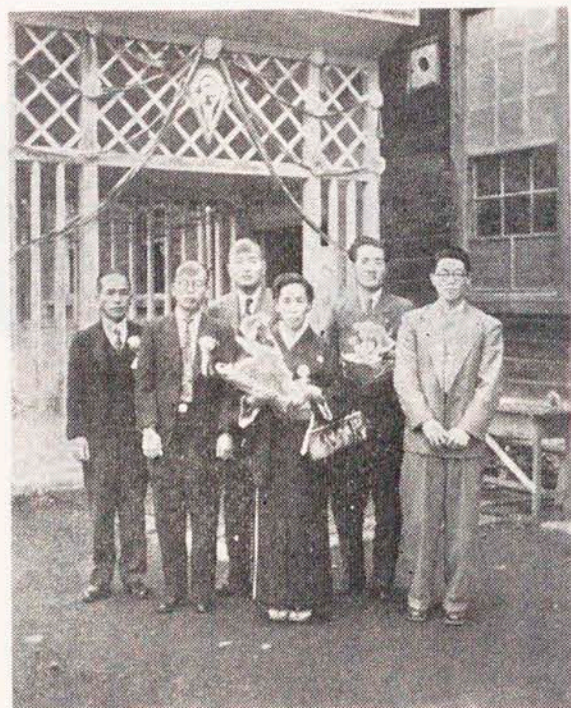
このように、本校は明治、大正、昭和と発展をつづけてきましたが、学校のなかで生まれ、そして育った私は、輝やかしい発展の陰には大きな苦難の連続があったことを知っているだけに、自分の将来について子供心にも大きな責任を感じていました。

このような気持を抱きながら、東大を卒業し、卒業と同時に、将来に備えるために文部省に奉職しましたが、多くの優秀な先輩や友人に恵まれ、文部行政の一端をになつて、使命感に燃えて毎日の仕事に打ちこむことができました。文部省の友人のなかには、教員の子弟や私学人の子弟も多く、いずれも文部省の幹部として活躍していることに力強さを覚えたものです。

このようにして、楽しく、しかも有意義に勤務し、この間、灘尾弘吉文部大臣の秘書官や本省の初等中等教員局の各課長などを歴任してきましたが、本学園に昭和四十二年短大が新たに創設され、高校・短大と本学園の仕事もますます重大さを加えてきましたので、私は父をたずけて学生、生徒の指導に専念することとなり、昭和四十三年七月に文部省を

辞して本学園に戻ったのです。

それから十年、幸いにして短大、高校とも順調に発展してきましたが、本学園は間もなく創立八十周年を迎えることになります。一九八〇年代は本学園をさらに発展、充実させる飛躍の年代といえましょう。私は本学園の先生方や卒業生、在校生の皆さんの協力をえて、私に課せられた大きな責務を果たしたいものと念願しています。



昭和二十五年十一月三日に挙行された
本学園創立五十周年記念式典に文部大
臣代理として本校に見えられた内藤馨
三郎現文部大臣(当時文部省財務課長)
をかこんで。

写真は、左から、本学園理事長(学長)
須賀友正先生、内藤現文部大臣、栃木県教
育長市川清先生、須賀華子先生、手塚武先
生、現校長須賀淳先生(当時文部省財務課
勤務)

二年 齊藤 洋子	露の朝おいてきぼりの星ひとつ	一年 高橋 圭子	風しずかほのかに匂う菊の花
二年 高橋八重子	西の空群れてとび行く赤とんぼ	一年 坂本 由美	風鈴の音をききつつ夕涼み
二年 戸崎 直美	秋空にばつんと浮ぶ白い雲	一年 亀田 悦子	ゆく夏や風とたわむる白い蝶
二年 水越恵美子	星空に夏の思い出たくすなり	一年 宇賀神典子	空の青枝もたわに柿実る
二年 横堀 久子	朝露や秋のけはいのここにあり	一年 渡辺 克子	香水を匂わせ母の旅立てり
二年 高橋 邦子	はらはらと落葉散りしく秋風に	一年 吉田美智子	輝きてさわやかな朝男体山
一年 泉田八寿子	夕空に黒くちりばむ赤とんぼ	一年 山崎まゆみ	おみなえし仏壇に供え祖母しのぶ
一年 善林 広乃	夏来るや青春光る甲子園	一年 矢島 永子	
一年 長谷川文子	赤とんぼ夕焼け空とくらくべつて	一年 村上 幸子	
一年 松本 恵子	風鈴や風に負けずに歌ってる	一年 町田 光子	
一年 青木 和枝	せせらぎに紅葉一葉流れゆく	一年 本多 イセ	
一年 福井 紀子	夕暮れに子供の歌う赤とんぼ	一年 福井 紀子	



治安維持に努め20年

須賀公安 委員長 県警本部で離任式

「須賀公安委員長。長い間、治安維持に努め、ご苦労さまでした」。去る二月十七日に県公安委員長を退任した須賀友正氏。この日、県警本部で離任式が行われ、県警本部四階大会議室で開かれた。

この式は、須賀氏の長年にわたる功労に感謝状を贈るという開いたもので、式には小館県警本部長をはじめ防犯、交通、刑事など各部の部長、課長など約百人の幹部が出席した。

まず喜田清吉現公安委員長が「先生の業績を拝見し、私たちも県治安維持に努力したい。先生もお体を大切に、これから警察の発展のために目を配っていただければありがたい」とあいさつした。

続いて出席者一同が県警本部庁舎玄関前に並び、同庁舎から出て来た須賀氏に感謝の花束を贈り、警官に深々と頭を下げ、警察音楽隊が奏でる「ほたるの光」の曲に乗って、同庁舎をあとにした。



下野新聞 (53、7、20日付)

須賀学園理事長、宇短大学長の須賀友正先生は、その円満、公正なお人柄により県公安委員また委員長として20年、かずかずの業績を残して昨年2月17日退任されました。

7月19日盛大な離任式が行なわれ、感慨も一しお。ほんとうにご苦労さまでした。

学園ニュースピック

優しい心づかいの運動を推進

生徒会総会で決まる

昭和五十三年度生徒会総会は、六月十三日、一時半より体育館において、全校生徒参加のもとに行なわれました。五十二年度事業および決算報告、五十三年度事業計画および予算案がそれぞれ審議決定され、続いて議事に入りました。

議題は、三年十組、秋庭かおるさんの提案により「優しい心づかいの運動を推進しよう」という提言に基づいて、行なわれました。場所・人数・時間的にも限りのある中で話し合いではありましたが、生徒の皆さんの活発な意見の交換で、多人数の総会としては十分に話し合いがなされました。その他としては、三年に一度の秋季大運動会・校内小展示会についての、さまざまな質問や意見が出さ

人間の心を求めて

……校内読書感想文入賞者……

昭和五十三年度校内読書感想文コンクール応募作品はおよそ二四〇〇、夏休みの課題として九月一日に提出された。内容・表現・分量等について審査の結果、次のとおり入賞者を決定し、発表した。なお、各学年三位まで、賞状と賞品を贈り、佳作若干名には賞品が贈られた。

▽三年 一位「坊っちゃん」 5組 大出寿子
二位「罪と罰」 1組 小川友子
三位「狭き門」 13組 安部由紀

一位「車輪の下」 16組 小松原妙子
二位「日本人の笑い」 9組 君島幸一
三位「人間失格」 3組 影山智恵子

▽二年 一位「罪と罰」 16組 半田宏美
二位「人生論」 13組 小倉栄子
三位「狭き門」 6組 細川敏行

▽佳作入賞者

「三年」 愛心・神保洋子。愛と死・川津敏子。破戒・岡田正子。アンネの日記・大鐘由美子。人間失格・各藤富子。日本人とユダヤ人・丸本経美。青春の怒濤・藤田清美。青年の樹・石崎潤。こころ・藤崎光雄。幽霊・高松幸子。動乱のペイルートで花嫁となつて・和気香。人間の条件・石井りか子。車輪の下・渡辺政江。夕鶴・稲田やよい。こころ・平山真弓。 「二年」 生と死・半田富子。愛の旅立ち・稲田史子。俺の生きがい・伊沢明子。こころ・野沢則子。こころ・我妻浩美。愛と死・藤井洋子。しろばんば・丸山弘子。樺・山田美佐子。無事の人・高橋真理。生まれ出づる悩み・星野はるみ。野菊の墓・小山政江。青春ノート・菅野裕子。若きウェルテルの悩み・酒井有子。破戒・黒須賢子。 「一年」 ひめゆりの塔・早乙早英子。田園

交響楽・清水一三。十五歳の遺書・寺内和子。置は心につけて・木村道子。むすめこころ・寺内久枝。山椒太夫・前田浩美。母の肖像・平野隆子。野菊の墓・松崎竜一。スウ姉さん・今井優子。あすなろ物語・白川浩子。野菊の墓・石淵敏子。車輪の下・小島由佳理。アンネの日記・塩谷信子。悲劇の少女アンネ・斎藤佐裕美。たとえばに明日はなくとも・金子路子。車輪の下・小堀典子。

PTA支部総会へ

全職員が出向く

……出席率九四%の高率……

本年の夏休みは特に暑さがきびしかった。その暑さを吹き飛ばす、活気のあるPTA支部総会が八月二日宇都宮を皮切りに十六ヶ所の中学校の体育館で開催された。御父兄の方々と先生方の生徒を中心とした熱心な話し合いがおこなわれ、本校の今後の生徒指導に十分な成果を期待した。

開催にあたっては、各地元の役員さんや学友会生徒の協力があり、その上、中学校長先生や学校関係の方々のご出席をいただいたところが多かった。なお、担任の先生は、一名



校長先生のお話を傾聴する父兄

でも受持生徒があれば、必ず出席する。各地区別の出席率をみると、次のとおり。

地区別出席率表(%)

会 場 名	出席率
宇 都 宮 I	91
〃 II	88
石 橋	96
益 子	95
田 原	86
今 市	67
結 城	100
栃 木	96
壬 生	95
鹿 沼	92
古 河	95
小 山	96
宇 都 宮 III	92
〃 IV	93
西 那 須	94
阿 久 津	88
合 計	94

校内合唱コンクールの入賞者

表からわかるように、全体で九四パーセント(二年九四%、二年九〇%、三年九六%)という高い出席率は、ご父兄の方々の教育に対する関心の高さを示していると思われる。この熱心が今後のPTA活動の原動力となることは大変喜ばしいことである。

十一月十八日に第十五回校内合唱コンクール決勝が体育館において開催されました。クラス一団になった美しいハーモニーに魅了され、その余韻が残っていたようです。

優秀賞は次のとおり。
一位 三ノ十二「ハレルヤ」三部合唱
二位 二ノ十三「美しく暮きドナウ」

- 四部合唱
- 三位 二ノ三「山の息吹」三部合唱
四位 三ノ十「希望のさやき」二部合唱
五位 一ノ十三「競をください」二部合唱
三ノ七 「荒野の歌」三部合唱

放送コンテスト優賞者

恒例の校内放送コンテストが、去る一月九十、十一日(予選)、十六日(本選)に行なわれました。結果は次の通りです。

▽アナウンス部門

- 一位 二年三組 伊丹ひとみ
一位 二年七組 高橋加津江
三位 三年八組 飯島 衛

▽朗読部門

- 一位 三年七組 藤田清美
二位 三年十二組 川島清美
三位 三年六組 丸本清美

なお、コンテストへの関心が強くなったのか、多数の応募があり、各学年とも激戦でした。本選では、朗読の課題が、阪本越郎の詩「朝の雨」だったため、情感を鋭くとらえた三年生の活躍が目立ちました。

盛大だった

秋季大運動会

前日までの雨もすっかり上がり、十月二十九日、しっとりと潤おされた宇都宮短期大学グラウンドにて、三年に一度の秋季大運動会が全生徒参加のもとに、盛大に行なわれた。「校旗入場」という言葉が、秋風に運ばれグラウンドに、厳肅に反響し、生徒達の背筋は伸び、目はひとときは輝く。やがて練習に練習を重ね、やっと実を結んだ全校生徒による大行進・競技へと進行していった。

例年は、紅白に分け技を競い合っていたが今年度は、学年対抗に分け競技が行われ、各学年ごとの親睦をも深めることができ、得点板を見る生徒達の目は若々しく、競争意識に燃え、何か心に透入する「これぞ、若者!」といったすがすがしいものを感じさせられた。いずれにせよ、この三年に一度きりのこの大運動会、生徒同士の心のふれ合いはもろろん生徒と先生との師弟関係を越えて競技上のふれあいは、すばらしいものであった。

(丸本記)

本年も大好評

▽調理科父兄の試食会△

調理科恒例の父兄試食会が本年も九月十九日(三年)、十一月七日(二年)、十一月十九日(一年)と三日間にわたって本校講堂で行なわれ、父兄の出席率も九十八パーセントと盛況で、生徒も普段の勉強の成果を見てもらおうと腕によりをかけて頑張っていた。授業参観のあと、校長先生のあいさつ、つづいて築島先生の進行で、指導にあたられた横山新井、倉持、大竹の諸先生から「料理の心」等の話があり、試食に入る。終って「わが子」の作った料理に異口同音に「きれいだ」「おいしい」とおほめの言葉の連発、わが子の成長ぶりに満足の様子だった。好評のうちに閉会となる。

運針競技会の成績

家政科恒例の校内運針競技会は、十月二十一日実施。同科クラス代表三名あて、一年二十一名、二年二十四名、三年二十四名が出席。その技能を競い合った。各学年入賞者次の通り。

- り。
- 一年一位・一の七吉田晴美、二位・一の二亀田由美子、一の二竹村佳子、三位・一の三五月女幸子、一の六手塚明美、一の七山川昌子

- 二年一位・二の五竹淵由美子、二位・二の四落合恵子、二の六岩淵貴代、三位・二の七関香世子、二の七小松本友子、二の八水野絹子

- 三年一位・三の五手塚志津枝、二位・三の五佐藤智子、三の七平出裕子、三位・三の二永嶋泰子、三の三鈴木タツ子、三の五鈴木みどり。

校内弁論大会入賞者

十一月十八日に第十四回校内弁論大会決勝が、体育館において開催されました。淡々とした口調の中に闘志をひめた熱弁をふるい、共感を呼んでいました。その結果、優勝者は次のとおりです。

- 一位 一ノ十四水野真奈美
二位 三ノ九井之下登美子
三位 二ノ十一沼野文子

「明日のために」

- 四位 三ノ四野村典子
五位 二ノ八木村まゆみ

「生と死」

熱戦ノ球技大会

七月七日(十二日)に渡り、第十五回校内球技大会が行なわれました。日頃の練習の成果にものをいわせ、バレー、バスケット、ソフト、卓球の四種目を戦いました。職員チームの参加もあって熱戦を繰り返しました。その結果、男女別種目優勝クラスは次のように決定しました。

△女子の部▽

- バレー一位三の十一、二位二の十四、三位二の十二、四位三の二、五位二の八
バスケット一位三の十四、二位三の十一、三位一の十一、四位一の三、五位一の五
ソフト一位三の十三、二位三の四、三位三の十一、四位三の十五、五位二の一
卓球一位三の十二、二位二の十五、三位二

△男子の部▽

- バレー一位三の八、二位二の九、三位一の九
バスケット一位一の八、二位の九、三位一の九
ソフト一位三の九、二位二の九、三位三の八
卓球一位三の九、二位二の十、三位一の八

滑る若者二千二百

◇全校生のスケート教室◇

昭和五十三年度スケート教室は、恒例により、一月十二日(金)午前八時四十分より午後三時まで、日光市所野町「日光スケートセンター」において開催された。本年度の参加者は二千二百余名、バス四十六台を連ねての大移動である。スケート場に到着すると、準備運動をして早速リンクの上へ、先生方の指導の下、全校生が氷の上に若さをぶつけていた。先生と楽しく手をつなぎ滑る者、ペアで仲よく滑る者、それぞれの若者が真白なリンクの上を心ゆくまで滑り楽しむ。校内ではできない年に一度のスケート教室ということでは

と席も非常に少なく、リンクの上で大変な盛況ぶり、時のたつのも忘れるほど。「終了！」総指揮の岡田先生の号令に従い、生徒たちは整然と行動し、氷の世界をいつまでも名残り惜しうに見つめながら、帰途についた。(佐藤良作記)

下野新聞から転載

伊沢雪夫先生の「ほん」

ヨーロッパの夏 (伊沢雪夫著)

数年前から高校教員の小ヨーロッパ視察、研究旅行が企画され、その人選に当たった先生方の訪欧も相当数に上っているようである。もちろん、それぞれの先生方が専門の目で見聞を深められ、意義深いレポートも数多く然るべき筋に提出されていることは思うが、その旅行者の一人である伊沢雪夫さんから「ヨーロッパの夏」の近著を贈られ、よくぞやったなどの感銘深く拝読した。

「駆け足旅行ではあったが、なにか尊いものを得た。胸中に去来するそれを何かの形で記したい」と願う宇垣大附属高校勤務という激務の中で執筆、出版したもの。

誰かがやりそうでやれなかった事を彼がやりとげ、しかも社会科の教師としての目を働

かせての彼の観察眼の鋭さと、ハンドブックとしての要素の豊富さが相まって高く評価される。第一部が「ヨーロッパの夏」第二部は学園内での随筆。本文百三十頁、外にヨーロッパ各地の主なる史蹟、風物を撮影した八十枚の写真が収録されている。(発行所・南河内町上坪山八八二・非売品・手塚武評)

PTA 研修旅行

山形赤湯温泉で

恒例となったPTA研修旅行も回を重ね本年は九回目となった。日時は九月十六・十七日の両日。

十六日は一時二〇分發で山形県赤湯温泉一泊・本年は久しぶりに松岡会長の参加を得てバスの中も一段とにぎやかであった。宇都宮I・Cへ、例年ですと手塚先生の文芸講話があるはずなのに、ご病気でお話を聞くことができず残念だった。

さらに栗子峠を越えて米沢市から赤湯温泉へ、ホテルに着いてはすぐに会長の司会で研修に入る。今夏のPTA支部総会や今後の活動その他について二時間半にわたって意見交

換を行った。丁度、その夜、町の祭礼があり「ししおろし」という行事を見学する。

翌十七日はあいにく雨となったが米沢市内見学、上杉家の「御廟」「上杉神社」を参拝、織物工場を見学、買物を楽しんだあと、開通間もない西吾妻スカイバレーライン、周囲のナナカマドやウルシの紅葉のはじまった溪谷を鑑賞しながら松原湖畔へとすすみ、「山の家」でキノコ飯の昼食をとり、志田浜で小休止のあと郡山I・Cより一路学校へ。バスの中は歌あり、お話ありのにぎやかさ、そして一段と親睦が深まり有意義な旅行を終了することができた。なお、参加者は次の通り。

父兄側 松岡祐祥、渡辺衛、永山松雄、篠崎キミエ、上野正男、秋山記典、六川彦次、福田勉、鈴木春雄、金子花枝、石川順、小堀正之、阿久津靖典、伊藤菊夫、中丸アイ子、岩沢義雄、鎌井宏育、高岩芳治、飯岡明、岡正紀

▽学校側 校長、太田、三矢、金田先生。

五年連続出場

庭球部が関東軟式大会で活躍

昭和五十三年度・大会戦績

春季大会 長谷川、根本組 三位

ベスト三十二本あと一歩でランキング入りであった。

▽▽▽▽△△△△△ 新年恒例のかかる大会

ことしも新春早々、国語科主催のかかる大会が家政科特別教室において行なわれ、各学年選出のチャンピオン達が知と技を競い合い、入賞者にはそれぞれ賞状と賞品が授与された。入賞者はつぎのとおり。

▽一年一位 十二組 吉沢美智子。二位 十組 鈴木くるみ。三位 十一組 石淵敏子
▽二年一位 十二組 田代道代。二位 十二組 鈴木則子。三位 十三組 小野崎史子。

▽三年一位 十二組 石井リカ子。二位 十組 阿久津晴美。三位 十二組 手塚恵子。四位 十組 秋庭かおる。五位 七組 小池カヨ子。

本会は回を重ねる毎に盛大になっているが王朝の昔をしのぶ催しとして続けたもの。

こぎん刺しゆう等が好評

手芸部の展示作品

手芸クラブでは、主にレース編みや毛糸でベスト、セーター、カーディガンなどの編み物が行われ、課外授業では、七宝焼きや藤でかごを作ったり、軍手を用いてつばめの子を作ったりしているが、秋の校内展示会には一年半の日月をかけた展示用作品こぎん刺しゅうのびようぶと文化刺しゅう、ドロンワック、リボンフラワーなどを出品、好評を博した。

(坂入すみ江記)

◇ギター演奏熱ばむ◇

課外授業、夏期講習会と今までにない新しい活動をつづけた本クラブは、秋の展示発表会にかけて、体育館、教室等で大熱演全校生をヤンヤと楽しませた。(千田恵美子)



説明 必勝を期して、土浦市会場で

高校選手権において

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本

高校選手権において

説明 必勝を期して、土浦市会場で

長谷川(二年)根本組(二年)組、全日本